

# 理科を学ぶ意義や有用性を実感できる授業づくりの研究

—実社会・実生活とのつながりと主体的な学習に着目して—

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 理数・自然科学系（理科）

氏名 村松 伸太郎

全国学力・学習状況調査の結果から、理科学習への高い興味をもちつつも、生活の中でどのように生かされているのか、将来どのように役に立つのかという、意義や有用性の実感については課題が見られることが分かった。この状況を踏まえ、本研究では、生徒が理科を学ぶ意義や有用性を実感するための授業づくりの視点とその有効性を明らかにすることを目的とした。

先行研究の調査から、生徒がつながりを実感できる実社会・実生活との関連付けと、生徒が自ら課題を解決していく主体的な学習が重要であることが明らかとなった。そこで、中学校第1学年を対象に、実社会・実生活に基づいた探究の過程に沿った授業展開、メタ認知を活性化させる OPP シートによって促す主体的な探究活動という二つの手立てを用いて実践を行った。

実践後の調査や OPP シートの記述内容から、理科学習への意義や有用性への肯定的な回答は向上した。生徒が理科学習を自分事として捉える視点が重要であることが明らかとなった。